

【議会報告会】

○待機児童も多い状況であるが、特別養護老人ホーム等の空きを待っている高齢者も多いので、その対策にも積極的に取り組んでほしい。また、三重団地等では、道路から自宅の敷地に入る際、ほとんどが階段であり、車いすの通行が困難である。そのような場所のバリアフリー化に向け、貸付金や補助金を設けることも検討してほしい。

⇒議員 意見として承る。

○本市の学童保育は民設民営であるが、議員としてはどのような運営が望ましいと考えるか。

⇒議員 各議員によって考え方は異なる。また、民間での学童保育所の開設に当たり、学校の空き教室等を利用することも、子供たちが移動しやすいというメリットはあるものの、その是非は地域によって考え方が異なると考える。個人的には民設民営が悪いとは思っていない。

○放課後等デイサービスについて、市内36カ所の運営形態はどうなっているのか。

⇒議員 36カ所の放課後等デイサービス事業所は、民間による運営であり、市、県より補助を受けて運営している。

○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーは、全校に常駐しているのか。

⇒議員 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーは、常駐が望ましいという意見が議会でも出ており、国においても重点配置に向けた予算の拡充がなされている。しかし、現状、常駐はされていない状況であり、有資格者も少ない状況であることから、今後の課題であると考えます。

【シティ・ミーティング】

グループAにおいて出された主な意見

○幼稚園、保育園における緊急時の避難について、日中に津波等の災害が発生した場合、園単独での対応は困難であると考えられるため、近隣の中学校や高校と連携し、普段から合同で避難訓練するなどの取り組みが必要ではないか。

○中学生の子を持つ親の立場では、中学生、高校生と連携して保育園、幼稚園の園児が移

動するのは危険であると感じる。

- 防災対策について、ハード面で対応できない部分をソフト面でどのようにカバーするのか、地域、行政が真剣に考えなければならない。地域防災の枠組みの中で幼稚園、保育園の園児の命を守ることも重要であると考えるが、特に私立幼稚園、私立保育園の園児を地域、行政でどのように見守るかという視点が抜けているのではないかと感じているので、今後、検討してほしい。
- 開かれた学校づくりについて、学校の運営に参画しているような一部の方を除き、保護者にとって学校は遠い存在に感じている。
- 登下校時の見守り隊が組織されている地域もあるが、そのような組織がない地域においては、子供たちは、地域住民の見守りの目がない中で下校する必要がある。子供が危険な行動をしても、地域住民に会うこともなく、声掛けをされることもない状況であるため、地域住民の意識向上を図るとともに、地域への働きかけを積極的に行う必要があると考える。
- 放課後の校庭の開放について、自由に入れる学校もあれば、様々な規制のある学校もあるなど、地域によってルールが異なっている。ルールがどのようになっているか、市民にも周知してほしい。

グループBにおいて出された主な意見

- 四日市市民総ぐるみ総合防災訓練が河原田小学校で9月に実施され、自衛隊等も参加するなど、非常に大規模で市民にとって有益なものと感じたが、住民の防災意識については個々によって差があるため、防災意識の向上に努めたいと考える。
- 自治会では、災害が発生した際の学校側の対応について、ほとんど把握していない。自治会、学校間でももう少し情報共有をする必要があると感じており、地域と学校との積極的な連携について、行政が音頭をとって進めてほしい。
- 以前大雨特別警報が発令された際、地域の方が河原田小学校に避難をしてきたが、鍵が開いていなかった。緊急時に備え、避難所の鍵を地域に預けているが、いざ対応が必要となった際にどのように動けばよいのか把握していなかったことが原因と考える。実際に災害が起こった際に直ちに対応できるよう、地域と学校との連携にもう少し力を入れるべきである。
- 港中学校では、防災訓練に際し、中学生が炊き出しを行っている。また、楠地区では津

波への意識が強く、避難訓練の際に、保育園児の移動を中学生が助けてくれるなど、中学校が積極的に防災対策に努めている。このような連携が各地区でできればよいと考える。

- 今後、小中学校において、普通教室へのエアコンの整備が進められることとなるが、防災機能の向上の観点からも、スピード感を持って進めてほしい。
- 災害発生時、全ての地域住民が避難所に入るとは限らない。この観点から、各学校への太陽光発電の設置を進め、学校だけでなく地域の電力も賄うといったことも考えるべきではないか。